



エラスムスとルターの論争 (1525年) 500年に

宗教改革によって提起されたさまざまな論争主題のうち、「自由意志論」を、エラスムスは「解き明かし難い謎」「ただ一つの教義」とよび、ルターは「要点」「基軸」「急所」とよんでいる。それについてエラスムスは本書後も著作を重ね、ルターは本書をいつまでも残したい自分の著作の一つに挙げている。

エラスムス：「自由意志についてより以上に解き明かし難い謎はほとんどない」。「私は、彼のただ一つの教義と格闘しよう」。

ルター：「だれにもまして、あなただけが、事柄そのもの、つまり訴訟の要点を衝いてくれた……わたしはあなたを大いに称賛する。ひとりあなただけが、事柄の基軸を見、急所を衝いてくれた。このことで、わたしは心からあなたに感謝する」。

当論争後もエラスムスは『更なる弁明書』第I書、第II書を著し、ルターの書によって批判された自身の立場を弁明した。それに対しルターは著作による反論はせず、後年、自身の著作集の計画について問われたとき「わたしとしては自分の諸著作を整えることには乗り気がしない。『奴隷的意志について』と『教理問答書』以外は、わたしの正当な著作と認めていないから」と答えている。当論争で「自由意志」を表題とするエラスムスも、「奴隷的意志」を表題とするルターも、自由意志論をキリスト教の重要教義と見なしている点で、またこの主題を生涯にわたって重視している点で、両者は一致している。

シリーズ「宗教改革の焦点」 既刊

01 『ジュネーブの議会と人びとに宛てたヤコブ・サドレート枢機卿の手紙 × ジャン・カルヴァンの返答』
石引正志*訳 定価 2,420 [本体 2,200 + 税] 円

〈訳者紹介〉竹原創一 (TAKEHARA Soichi)

1948年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。京都大学博士(文学)。立教大学名誉教授。

著書 『ルターと詩編』(知泉書館)

共著書 『ルターと宗教改革事典』項目「エラスムスと人文主義」「自由意志と奴隷意志」(教文館)、『ルターを学ぶ人のために』「聖書の新しい読み方」「義認」(世界思想社)

訳書 H. J. イーヴァント著『ルターの信仰論』(日本キリスト教団出版局)、M. ルター著『第2回詩編講義』ルター著作集第二集第3巻(リトン)ほか

一麦出版社の新刊

◎ 7月10日発売

デシデリウス・エラスムス
『自由意志について』、
評論あるいは比較検討

マルティン・ルター
×
『奴隷的意志について』

宗教改革の焦点 00

竹原創一*訳

定価 9680 (本体 8800 + 消費税) 円

A5判・上製・460頁

ISBN978-4-86325-166-3 C0016